

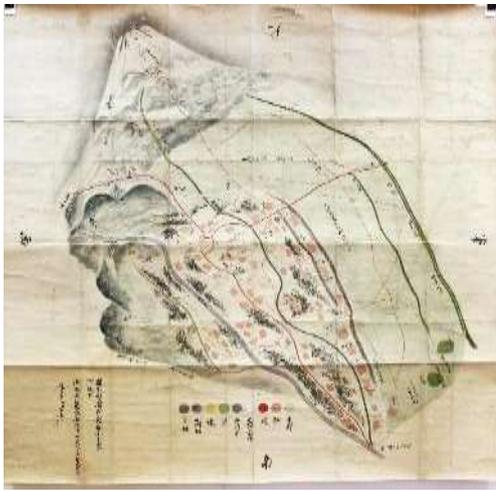
富士山信仰と御師・登山道

— はじめに —

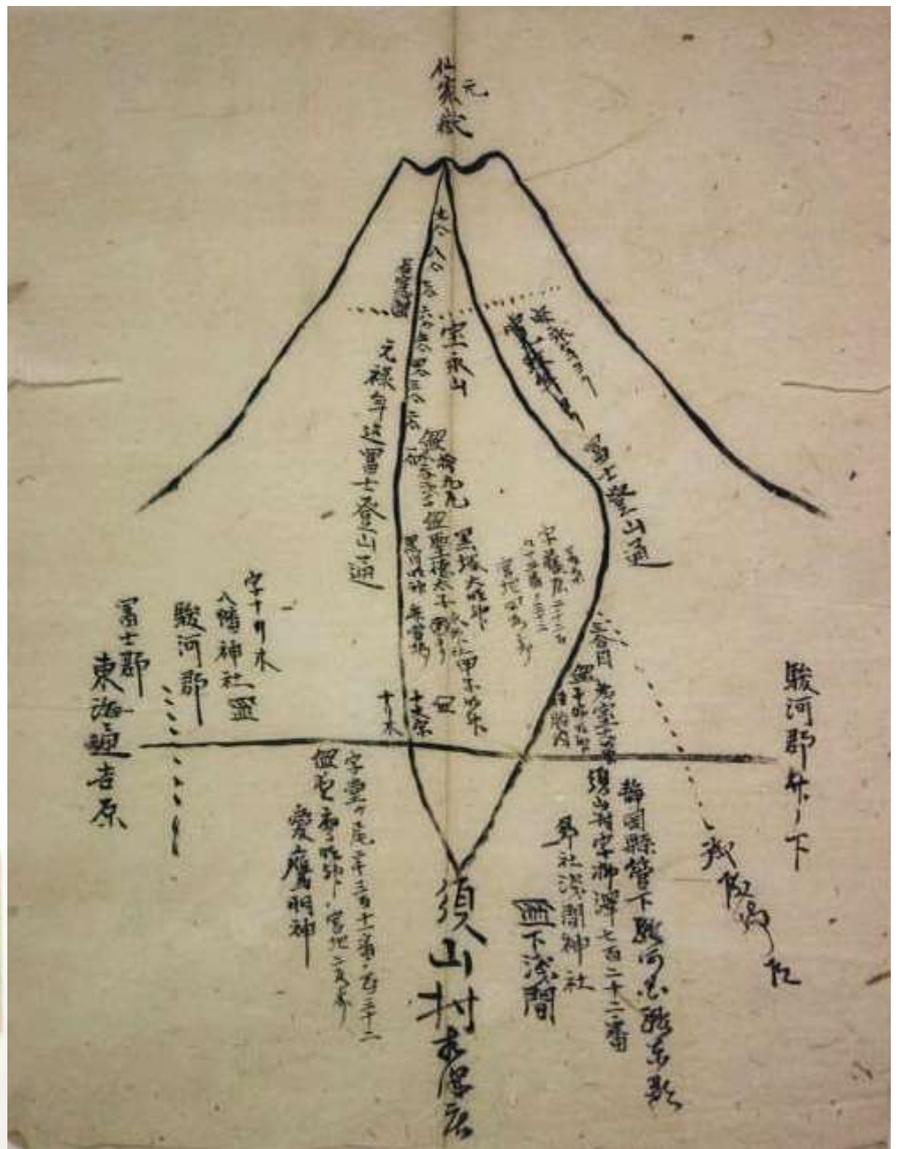
わたしたちのふるさとにある富士山は、信仰や芸術に大きな文化的な影響を与えたとして、平成25年6月に世界遺産（文化遺産）として登録されました。

富士山資料館では、平成25年に登録記念特別展「須山浅間神社旧御師渡邊家の遺品」、平成26年に一周年記念特別展「富士山信仰と文化」、平成27年に二周年記念特別展「江戸時代の村のようすと人々の生活 — 須山村をとおして—」を企画し、開催してきました。

本年度は登録三周年を記念し、今までの総まとめとして「富士山信仰と御師・登山道」というテーマのもと、須山口登山道を中心とした江戸時代の富士山信仰と登山の様子に迫ります。



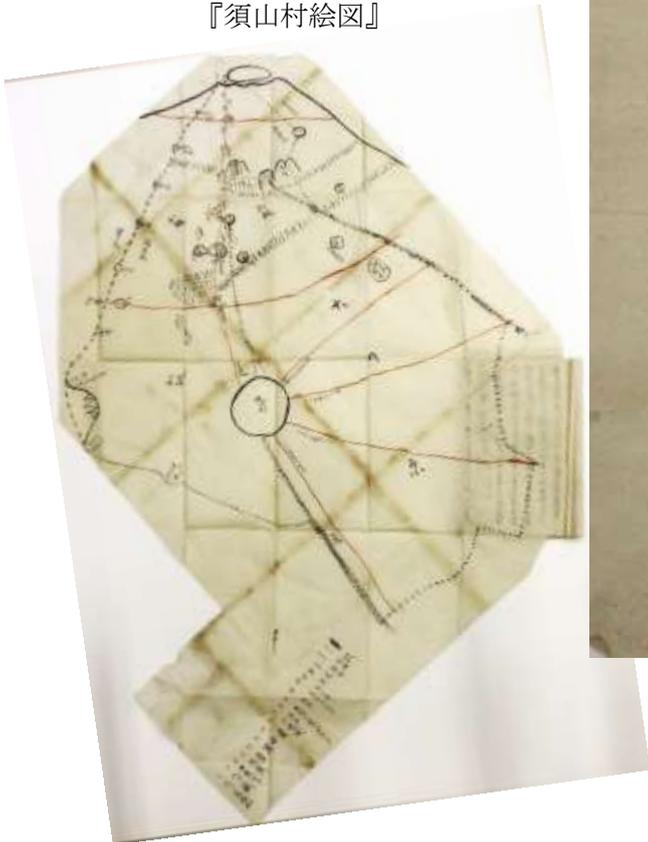
『須山村絵図』



『登山道変遷図』

左が宝永の噴火前（元禄期）の登山道、右が宝永の噴火後（安永期）の登山道

噴火口周辺だけでなく始点となる須山村内から登山道全体が大きく変遷したことがわかります。



『噴火前の登山道絵図』